



〒892-0841
鹿児島市照国町13-42
カトリック鹿児島教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



「ともに歩む教会」づくり

聖年に寄せて（5）

鹿児島教区司教 中野裕明

教区の皆さま、お元気でしょうか。教皇フランシスコの逝去後、わたしたちは新教皇として、レオ14世を頂きました。教皇は新任の短いあいさつの中で、前教皇が始めた「ともに歩む教会」の精神を継続する旨を表明なさいました。そこで今回は、それがだれとともに歩むのか、そしてこの教会の本質と目的についてお話しします。先に教会の本質と目的についてです。

教会は聖霊降臨によって誕生しました。復活なさったイエスは御父とご自分の霊である聖霊を弟子たちに送り、新しい神の民を形成なさいました。この新しい民は旧約の民を根本的に変貌させ、神の国の証として立てられたのです。

キリストを王として抱くこの国は「真理と生命の国、聖性と恩恵の国、正義と愛の国」（「王であるキリスト」叙唱）として、教



会の中に現存するように父なる神は望まれたのです。この父なる神の望み、すなわち人類の救いの計画の具体的な実現の場所として、教会は建てられたのです。

新しく洗礼を受けた信者に対して、聖ペトロは次のように言っています。「あなたがたは、主が恵み深い方だということを味わいました。この主のもとに來なさい。主は、人々からは見捨てられたのですが、神にとつては選ばれた、尊い、生きた石なのです。あなたがた自身も生き

た石として用いられ、霊的な家に造り上げられるようにしなさい。そして聖なる祭司となつて神に喜ばれる霊的ないけにえを、イエス・キリストを通して献げなさい。」（ペトロの手紙一・2・3～5）

まず自分の心に平和を

教区修道女連盟が総会と研修会

教区修道女連盟（澤ヤエ子会長）では、6月1日（日）教区本部で2025年度の総会と研修会を実施した。この日集まったのは、県本土と種子島地区で働く57人のうちから約40人の修道女たちだった。

午前10時30分から始められた総会では、昨年度の活動報告、決算報告、監査報告がなされた後、今年度の活動計画案、収支予算案が審議され、満場一致で承認された。その後は今年度の

役員紹介があった。今年度の役員は以下の通り。（敬称略）
会長 澤ヤエ子（レデン
プートル宣教修道女会本部）、副会長 日数谷知津子（純心聖母会鹿児島修道院）、会計 真浦直美（イエスのカリタス修道女会紫原修道院）、書記 岩永眞佐子（純心聖母会川内天辰修道院）、監査 小島圭子（シヨファイユの幼きイエズス修道会入来修道院）、理事 高木裕子（マリアの

恩恵の国、正義と愛の国」が存在することの証となっているのです。
この教会の目的を遂行するのが、司祭団と信者たちです。第二バチカン公会議によると、洗礼を受けた人

充実した奄美大島開催

三教区合同黙想会

大分司教区、鹿児島司教区と那覇司教区の司祭団が毎年合同で行っている三教区合同黙想会が、6月2日（月）の夕方から6日（金）の朝まで名瀬聖心教会を会場に実施された。こ

の黙想会が奄美で開催されたのは初めてであった。講師は先日コンクラーベに出席したばかりの大阪高松大司教の前田万葉枢機卿が務め、5人の司教と43人の司祭、2人の終身助祭合

は皆キリストの共通祭司職に参与し、神の民を形成します。この神の民の中から、秘跡の執行者となるために叙階の秘跡を受けた司祭団が出ます。
「ともに歩む教会」とは、正確に言えば、共通祭司職に与かる人たちと、叙階の秘跡を受けた人たちがともに支え合い、秘跡や祈りといった霊的ことがらや種々の司牧的イベント、ヒトやモノの経済的な維持管理の問題も含めて総括的に協力しながら教会を運営していくということになります。



わけて50人の聖職者が参加した。講話では近年のシノドスの歩みやコンクラーベ、新教皇レオ14世など幅広いテーマが扱われ、枢機卿自身が体験したエピソードも交えられ、参加者は興味深く聞き入っていた。

5日（木）は午前と午後が島内の教会巡礼に充てられ、大熊、瀬留、大笠利、

修道女会阿久根修道院）手際よく終えられた総会後は、研修会があった。

研修会のテーマは「主の平和は、まず、わたしたちから」で、講師には始良教会の末吉卓也神父が招かれた。

聖歌「キリストの平和」が歌われた後始められた講話では、まず教会にアルツハイマーの母親を引き取り世話をしながら司牧している末吉神父自身の葛藤と悟りが紹介された。

末吉神父は「私自身が疲れている時には、私が思うようにしてくれない母親に酷い暴言を吐いてしまうことがある。疲れが暴言を吐くという罪を犯させるのだ

古田町マリア教会を全員で訪問した。各教会では奄美出身の押川司教・郡山司教をはじめ、それぞれの主任司祭や信徒代表が教会の歴史や特徴を分かりやすく解説した。また同日午後5時から聖心教会にて島内の信者も参加して前田枢機卿主司式・説教でミサが挙行され、黙想会の実りと各教会で受けたあたたかいおもてなし、特に黙想会期間中の食事・交流会の手配に尽力してくださった奄美カトリック女性連盟の方々の働きに感謝をささげた。
黙想会は翌6日（金）7時半からのミサで終了した。（写真は奄美の教会を訪問した参加者たち。於瀬留教会）

教区人事

▼久山元太郎助祭
5月25日に叙階された久山助祭は、6月8日（日）付けで川内教会へ派遣された。

としたら、疲れ過ぎてはいけない、限界を超えてしまふといけないのだと悟った。これまで気晴らしにも取り組んできたが、それらは一時的なもので根本的な解決策ではなかった。今、改めてイエスの現存こそが平和の源であることを感じ、ご聖体の前に座ること以上に平和を得させてくれることはないかと悟った」と自分の体験を分かち合うことで、参加した修道者たちにも「自らの心にキリストの平和を築いて欲しい」とメッセージを送った。
研修会後は、昼食を挟んでミサがささげられ、この日の総会と研修会が締めくくられた。



助祭叙階の恵みをいただいて

福音史家ヨハネ 久山 元太郎



司教と抱擁を交わす久山助祭

去る5月25日（日）に鹿児島カテドラル・ザビエル教会でのミサの中で助祭叙階の恵みをいただき、喜びと感謝の気持ちでいっぱいでした。

私が教区司祭への召命を考えたのは、2014年の10月、45歳の時でした。

ある小グループのミサに参加した後のことです。そのミサを司式された神父様が私に「久山さん、教区司祭への道を考えたことがありませんか」と尋ねられました。

その時、私の心の中に相反する二つの反応がありました。一つはネガティブな反応、もう一つはポジティブな反応でした。

ネガティブな方ですが、当時私は茅ヶ崎のある精神障がい者のグループホームでパートで働いていました。

が、近い将来、そのグループホームの責任者（施設長）となることを既に承諾してしまっていました。そのため神父様から「教区司祭への道を」という質問を受けた時、内心「神父様、もう遅いんです。グループホームの責任者になると、約束してしまいました」と言いたい気持ちでした。



もう一つのポジティブな方ですが、神父様からの問いかけがあった時、心の中に喜びを感じました。それで、その時から「自分に教区司祭の召命があるか」と祈り、考える日々を過ごしておりました。

2015年の12月に「8日間の黙想」をして、教区司祭になる決心をいたしました。それで、今度は自分を神学生として受け入れてくださる教区を探すことにしました。

神学生としての受け入れを許可してくださる教区を見つけては簡単ではありませんでしたが、私に同伴してくださった神父様方や応援してくださった神父様方、その他の方々の助けのおかげで、幾つもの道が開き、される経験の後、鹿児島教区につながりました。

2017年の12月に四谷で、鹿児島教区の当時の教区長であられた郡山司教様

との面会の機会をいただきました。郡山司教様は私が鹿児島教区で司祭を目指すことに前向きな言葉しかおっしゃらなかったのです。そして2018年の4月に、私は鹿児島教区の神学生志願者として鹿児島に参りました。そして同年の夏

頃、鹿児島教区の神学生として受け入れていただきました。

1年ほど前のことになりましたが、私は30日間の黙想を行った結果、「教区司祭の召命は自分にはない」という結論に至り、中野司教様にその旨申し上げました。しかし、そのすぐ後に、私の弟からもらったメールをきっかけに、「司祭召命の有無の基準について、黙想の時に用いた基準とは別の基準もあり得る」と考えるようになり、また自ら希望し、再び司祭を目指すことに決め、中野司教様にもう一度やり直すことをお願いしました。

私の歩みはこのように、神学生になる以前も、神学生になつてからも、一筋縄では行かず、自分にとって、は、我慢、我慢の期間が長かったのです。

今、助祭叙階の恵みをいただいているところがあり、助祭になれてよかったという嬉しさがあります。

最後に、これまで私に寄り添って応援してくれて私の家族、私のために祈

NẾU KHÔNG CÓ KH Ỏ ĐAU THÌ BIẾT ĐÂU LÀ HẠNH PHÚC

Có bao giờ ta tự hỏi: Nếu cuộc đời chỉ toàn niềm vui, liệu ta có còn trân quý hạnh phúc? Nếu không có bóng tối, làm sao ta biết ánh sáng rực rỡ đến nhường nào? Khó đau và hạnh phúc, vốn dĩ không phải hai mặt đối lập, mà là hai mảnh ghép trọn vẹn cho hành trình cuộc sống này.

Khó đau là thầy, hạnh phúc là món quà. Những lúc tổn thương, chông chênh, ta dễ nghĩ rằng khó đau là điều bất hạnh. Nhưng nếu nhìn sâu vào bên trong, ta sẽ thấy chính những nỗi đau ấy giúp ta trưởng thành. Như hạt giống phải nứt vỏ để vươn mầm, như bông hoa phải đi qua đêm tối để đón ánh mặt trời, mỗi thử thách đều là cơ hội để ta hiểu mình hơn, biết mình thật sự cần gì, trân trọng điều gì.

Chỉ khi đã từng mất mát, ta mới biết giữ gìn những thứ ta đang có. Chỉ khi đã từng gục ngã, ta mới thấu hiểu giá trị của một bàn tay nâng đỡ. Khó đau không lấy đi của ta điều gì, nó chỉ khiến ta nhận ra rằng: hạnh phúc chưa bao giờ rời xa, chỉ là ta có đủ hạnh phúc để nhận ra hay chưa?

Khi ta còn đặt tên cho cảm xúc, còn chạy theo niềm vui và né tránh nỗi buồn, ta vẫn còn bị cuốn vào vòng xoáy của khó đau. Nhưng khi ta nhìn mọi thứ như nó vốn là – không gắn nhãn, không phán xét – ta sẽ thấy bình yên ngay giữa biến động, an nhiên ngay cả khi cuộc đời dâng sóng lớn. Bởi lúc ấy, ta không còn tìm kiếm hạnh phúc hay sợ hãi khó đau – ta chỉ đơn giản là sống.

Khó đau không phải là kẻ thù, hạnh phúc không phải là phần thưởng. Chúng chỉ là những sắc thái của cuộc sống, như mây trắng trôi trên nền trời xanh, đến rồi đi một cách tự nhiên. Khi ta chấp nhận mọi thứ như chính nó, ta sẽ nhận ra rằng: hạnh phúc chưa bao giờ rời xa ta – nó luôn có mặt, ngay trong giây phút này.

Sr M. Daria Thiên Thanh

6月の司祭評議会

の教区の方々、特に茅ヶ崎教会と初台教会の皆様、フィリピンの方々、大分県立大のサン・カルロス大神学校時代にお世話になった神父様方、応援してくださった神学生の皆さん、フィリピンの小教区での出合いがあった皆さん、ありがとうございました。

6月10日（火）に教区本部であった司祭の諮問機関である司祭評議会には、会場出席者6人、オンライン利用者5人の11人が出席しました。

14時から始められた会議では、まず事務局長の霧島神父から「青年の祝祭（ローマ巡礼）参加費援助のための募金」について説明があった後、教区役職・担当の確認が行われた。

その後は、集会祭儀司式者の任命について進捗状況が報告された後、秋に開催される教区評議会での検討が計画されている「教区財政」について、教区会計部が提出した資料で逼迫する教区財政の現状を分かち合い、また中野司教作成の資料「ともに歩む教会づくり」で、聖職者や信徒の教会における役割となすべきことの確認がなされた。

叙階式の日の思い出



- ①連願の間、床に伏せる久山受階者
- ②家族と記念撮影
- ③踊りを披露したフィリピンの方々

寡黙で生真面目

福音史家ヨハネ久山元太郎助祭誕生

5月25日（日）午後、鹿児島カテドラル・ザビエル教会で叙階式があり、教区神学生の福音史家ヨハネ久山元太郎さんが助祭の聖位に上げられた。

神奈川県出身の久山さんは、1969年生まれの56歳。2018年夏に鹿児島教区神学生として受け入れ



中野司教から授けを受ける

に臨んだ。

午後3時から始められた叙階式のミサには200人ほどの信者が参列、その中には出身地の神奈川から駆けつけた久山さんのご両親、愛知県から足を運んだ弟さん夫妻の姿もあった。

このミサで中野裕明司教を囲んで共同司式した司祭は15人。また久山さんを教区神学生として迎え入れる決断をした当時の教区長郡山健次郎名誉司教も奄美大島から駆けつけともにミサをささげた。

石神助祭によるヨハネによる福音書朗読後に始まった叙階の儀では、霧島彬神父が久山神学生を助祭として相応しい人物として推薦、これを受けて中野司教が助祭団に加える旨を宣言した。

その後中野司教は「助祭となるために司教の前で行

う誓約は、司教を通して神と結ぶ約束。独身を守ることは、すべての人のためにすべてになるという奉仕する者となること」と短く説教し、続けて久山神学生に助祭の役目について訓話した。訓話を受けた久山神学生は、助祭の務めを受け入れる決意を表明し、その後、参列者たちの熱い思いの込められた諸聖人の連願を受けた。

連願の間、床に伏していた久山神学生は、連願が終わると司教の前に跪き、司教の授けと叙階の祈りによって助祭の聖位に上げられた。

誕生した久山助祭はこのミサで奉仕していた石神、小島の2人の終身助祭の助けを借りて助祭服を纏った後、司教から福音書が授けられ、司教と抱擁し、また助祭たちと握手を交わした後、その後のミサのための奉仕へと移った。

ミサの終わりに、久山助祭は司教、司祭、修道士、信徒たちにそれぞれ謝辞を述べ、「司祭に叙階さ



5月23日の信仰宣言

れるまでこれまで通り祈りで支えてほしい」と挨拶した。

ミサ後は、聖堂内で聖職者たちと記念撮影を行い、また教会ホールで助祭誕生を祝う茶話会が開かれた。その場ではフリップ共同体のメンバーがお祝いの踊りを披露するなど、寡黙で生真面目な新助祭の誕生を祝う喜びが溢れた。

今後、久山助祭は6月8日付で川内教会でその務めを果たしていくことになり、6月4日、これまで居住していた教区本部を後にした。

イグナチオの霊操²⁵

紫原教会主任司祭 貴島 丈 弥



霊の識別（7）

第二週の霊的慰め

第二週目以降、霊操者は、特にイグナチオの観想を通して、より大きな慰めを神さまや善天使からもたらされます。そして、一方で「光の天使に変装する悪天使」も霊魂に慰めを与えますが、その目的は霊的成長、神さまからの喜び、慰め、平和、静けさなどを奪うことにあります。第二週から観想は想像力

を働かせて神秘的な世界へと入っていきます。しかし、この想像力というものは聖霊からも悪霊からも影響を受けやすいので、もたらされる結果や賜物によって識別されなければなりません。さらに、想像力は感情と密接に結びついているので悪い霊によって影響を受け、支配され、それを神からのものであると信じ込みやすくなるともされています。

そこでアルペは、もたら

される賜物によっての識別を示しています。

まずは、真理と謙遜の賜物によって与えられた慰めが聖霊からのものであると識別されます。その霊魂は、恍惚とかご出現といった特異なものを求めず、むしろそういったものから遠ざかり、自分の功德などではなく、ただ神の寛大さによってすべてはもたらされたのだと悟ります。主の愛の栄光を求めるのではなく、カルワリオの受難のイエスさまの傍にいたいことを望み、他人を低いものとして眺めることはできず、むしろ軽蔑されている自分自身を認め、自分の罪や欠点

を理解しているので虚栄心に陥ることもありません。

次に、判断と意志の屈服によって聖霊の働きを識別することができず、旧約聖書にある預言者たちの召命の場面や新約聖書の召命の場面、特にパウロの召命の場面に見られるように、神の前にすべての個人的な意志を屈服させることができるほどの出会いによって知ることができず、そして、感覚や欲情への強い克己という熱望で、最後に平安がもたらされることにより、聖霊のはたらきを識別することができるとアルペは紹介しています。

神秘的な世界に心を奪わ

れ、神秘的な人知を超えた能力、預言とか予知とかを獲得しようとする心で心を奪われる人たちが教会にも少なからずいます。確かにこういう能力は存在しますが、そこに主に對しての謙遜、屈服、克己や平安がないとすると悪霊からの誘惑に陥るといえる可能性が大いにあります。

霊操中に限らず、日常での霊的生活においても識別を必要とする場面がたくさんあります。

参考文献

ペドロ・アルペ、キリストの道 第四巻 第二週 生活の改善

会 と 催 し 7月

1日（火）福音者ペトロ岐部司祭と187殉教者

2日（水）みことばを祈る集い・ザビエル教会・10時

3日（木）中野アカデミー・教区本部・13時30分

4日（金）聖トマス使徒

5日（土）祈尾泰英神父叙階記念（1993年）

6日（日）責任役員会・教区本部・15時

7日（月）年間第14主日

8日（火）コンベンツス・教区本部・10時

9日（水）中野アカデミー・教区本部・13時30分

10日（金）朴鎮亮神父霊名（聖ベネディクト）

11日（土）青年会・教区本部・18時

12日（日）年間第15主日

13日（月）村田源次神父命日（2007年）

14日（火）中野アカデミー・教区本部・13時30分

15日（水）ハヌス神父命日（2022年）

16日（金）年間第16主日

17日（土）ユゼビウス神父命日（1979年）

18日（日）聖マリア（マグダラの）

19日（火）木村敏彦神父命日（2008年）

20日（水）ティエン神父叙階記念（2006年）

21日（金）中野アカデミー・教区本部・13時30分

22日（土）聖ヤコブ使徒

23日（日）福崎英雄神父霊名

24日（月）浜田盛茂神父命日（2013年）

25日（火）年間第17主日

26日（水）オリブの会・教区本部・14時

27日（金）久保芳一神父霊名（聖ルフィノ）

28日（土）中野アカデミー・教区本部・13時30分

29日（日）中野アカデミー、10日カトリック学校連盟、12日カ

ウンセリング講座、16日中野アカデミー、23日中野アカデ

ミー、30日中野アカデミー、

祈りの意向

【教皇の意向】 識別する力を養う

【日本の教会】 人間の尊厳

ザビエル上陸記念碑修復を終える

老朽化による傷みが目立っていた鹿児島市祇園之洲町にあるザビエル上陸記念碑（1978年建立）の整備と修復を昨年春に鹿児島市にお願ひしてあったが、それらに関する修復を終えたとの連絡が鹿児島市から教区本部にあった。

確認したところ剥がれていたタイルやザビエル像を支える支柱の補修がなされていたほか、これまでレリーフ製作のルイ・フランセン氏のみで、ザビエル像の制作者吉野毅さん（日本芸術院会員）の記載がなかった案内板にもその名が記されていた。



合同黙想会のお手伝いをして

奄美カトリック女性連盟

2025年2月16日（日）の「奄美の宣教司牧を考える会」において、教区本部から、6月に行われる「三教区（大分、那覇、鹿児島）合同黙想会」の時の昼食の手配、接茶と黙想会終了時の夕食会の会場設営、食事の準備等を「奄美



奄美カトリック女性連盟による講演会

カトリック女性連盟」で担当出来ないかとの依頼があり、奄美連の役員会に計り、ご協力させていただくことにいたしました。

「奄美連」の活動もコロナ禍以来不活発になっていました。この機会に奄美連が協力してお手伝いすることによって、これからの活動の起爆剤になったのではないかと感謝しております。

三教区合同の黙想会が奄美で行われるのは初めてのことであり、これだけ多くの司教様、神父様が一堂に会するごミサにあずかれたのは、奄美の信徒にとって大変大きなお恵みだと喜んでおります。

また、黙想会での講話のためにご来島された前田枢機卿様に、教区本部のご厚

意により、奄美連主催の講演会での講演をいただき（聴講者は約100人でした）、奄美連の会員だけではなく、多くの信徒にも参加していただけたことは大きなお恵みだったと喜んで

おります。

枢機卿様は、私たちカトリック信徒には最も大きな出来事である新しい教皇様が誕生されるローマでの枢機卿会議の様子など、深いお話をやさしく面白くご紹介して下さいました。心より感謝申し上げます。また、「三教区合同黙想会」のご成功を心より喜び申し上げます。

（報告 久保正子）

災害時の初動対応を学ぶ

ERSTワークショップ

5月23日（金）午後、教区本部で日本カトリック司教協議会カリタスジャパンのERSTによるワークショップが開かれた。

に対応するために構成された「緊急対応支援チーム」によるもので、災害発生時の混乱をどのように軽減し、教会と地域のために構築すべき初動対応を学ぶ



というもの。

教区からは中野司教をはじめ教区本部職員と、小教区代表やカリタス鹿児島島の委員など8人が参加した。

ワークショップでは、成井大司教を代表とするスタッフから被災地での実情と対応を学んだ後、鹿児島で想定される「大型台風による風水害」を災害ケースス

タデイとして、何をすべきかの確認が行われ、教区としての取り組みの確認や人材マップの作成、学校や幼稚園などとの連携の大切さを学んだ。

「短信」

大熊教会で堅信式

父の日の6月15日（日）、大熊教会（教会管理者・郡山健次郎名誉司教）では主日のミサの中で堅信式があり中学生4人が堅信の恵みに浴した。

このミサのために奄美大島に足を運んだ中野裕明司教は「堅信を受けることは、マリア様のように素直に信仰を告白できる人間になること」と話しミサを進めた。

また司教はヨハネ福音書朗読後の説教では「堅信の恵みを受けることで、イエス様が教えてくださった天の父への信頼を心に刻んで欲しい」とメッセージを送り、大人の信者として成長するようにと祝福した。

ご寄付のお願い NPO法人やくしま未来工房

大阪・関西万博イタリア・パチカン館でシンポジウム「イタリア人宣教師シドッティと日本—数奇な生涯の謎に迫る」（9月29日17時）とパネル展を開催する計画ですが、資金繰りに苦慮しております。ご寄付をいただけますと幸いです。

振込先：鹿児島銀行 屋久島支店 普通預金 3025114
：ゆうちょ銀行 記号番号 01700-5-173571
口座名：特定非営利活動法人 やくしま未来工房

聖アルフォンソ合唱団演奏会のお知らせ

日時：7月20日（日）14時開演
場所：カトリック谷山教会聖堂
入場：無料

私たち聖アルフォンソ合唱団は、教会音楽を愛し、教会でささげられるミサ曲や聖歌を演奏することを目的としております。

今回は典礼聖歌集をはじめとして、モーツァルトのミサ曲「KV275番」、バッハ、ブルックナーの合唱小品、オルガンと合唱による讃美歌など多彩なプログラムに挑戦しました。

私たちのパートナーであるブルーメン・シュトラウス・オーケストラの弦楽器奏者の方々も熊本をはじめ九州各地から参加・共演されます。

器楽と合唱、そしてオルガンの演奏をどうぞお楽しみください。

※駐車場が狭いため、できるだけ公共交通機関を利用してご来場ください。



要理

皆さんは公園に
いる鳩や電柱
に止まっている
カラスにいちいち
名前を付けま
すか？ そんなことをする人はいます
んよね。

名前を付けるということは他
と区別をすることです。

神様の目的はなんでしよう

す（イザヤ49・1b）。

ここでの「わたし」とは預言者である
イザヤのことだけを言っているのでは
ありません。神様に従って生きようと
してもそのように生きられない一人ひと
りのことを指していると言えるでし
ょう。

またその名前を呼ぶことを通
じて自分との関係：親子、先生と生徒、
そして友達といった関係が現れます。
自分とは何の関係もないどうでもいい
人の名前を知ろうともしませんよね。
イザヤの預言には「主は母の胎にあ
るわたしを呼び／母の腹にあるわたし
の名を呼ばれた」という言葉がありま

「主の御目にわたしは重んじられて
いる」と述べられているように、そのよ
うな人を神様は特に大切にされます
（イザヤ49・5a）。

そもそも「母の胎にあったわたし
を／御自分の僕として形づくられた主
は」とあるように、神様は御自分の御旨

その目的とはイエス様が教
えてくださった最も大切な掟である神
への愛と隣人愛の実践を通じて神の国
がこの地上で実現す
ることです。神様か
ら愛された私たちな
らそれがきつとでき
るはずですよ。

